

社会科

昨年度の取り組みと成果と課題

【 成果 】

- ・ICT 機器の活用と楽しく既習事項の定着を図る活動を取り入れたことで、主体的に学習に取り組む態度の正答率がほぼ目標値に達している。

【 課題 】

- ・複数の資料や文章を読み取ることに課題がある。資料の読み方の指導に重点を置くとともに、文章を読み取る力を、国語科を中心として他教科でも指導していく必要がある。
- ・記述式問題の正答率を高めていくことに課題がある。読み取ったことを自分の言葉に直して表現する力を高める指導を行う。

大田区学習効果測定の結果分析 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	≒	≒	
第5学年	▽	≒	▽
第6学年	≒	≒	△

学習状況の分析

○知識・技能

- ・4年生は目標値と同じ水準、5年生と6年生は目標値をやや下回っている。4年生は全国正答率を上回っている。4年生では「市の様子」、5年生では「暮らしを支える水」「自然災害から暮らしを守る活動」「特色ある地域の様子」、6年生では「世界の中の国土」「日本の水産業」「日本の工業生産」「情報を生かした産業」に関する問題の正答率が低く、前学年の既習事項の定着に課題があると考えられる。

○思考・判断・表現

- ・4年生は目標値を大きく上回っており、5年生は下回っている。6年生はやや上回っている。5年生では「暮らしを支える水」「先人の働き」、6年生では「日本の農業」「日本の食糧生産」「自動車をつくる工業」「情報を生かした産業」の正答率が低い。その中でも5年生は特に記述問題の点数が低い傾向にあり、自分で考えたことを文章で表すことに課題が見られる。
- ・4年生は思考・判断・表現に関する問題の全てが目標値に近い、それを上回っている。5年生は「都道府県の様子」、6年生の「日本の国土と人々の暮らし」に関する問題の正答率が高く、目標値を上回っている。身近な問題に関しての正答率が高いことが伺える。

○主体的に取り組む態度

- ・4年生は目標値を大きく上回っており、5年生と6年生はやや下回っている。学習内容が地域から区、都へ広がっても、主体的に学習に取り組める授業づくりが必要である。

授業改善のポイント（観点別）

【 中学年 】

○知識・技能

- ・地域のスーパーや施設を見学する活動を行うことで、地域の生活や人々の様子について学び、地域の人々の生活と産業は密接に関わっていることを理解できるようにする。

○思考・判断・表現

- ・体験的な活動のねらいを明確にし、調べたことを図や表に整理し、分かったことや考えたことをまとめる活動を行う等、表現活動を充実させる。
- ・体験後の振り返りの学習では、メモや資料を基に、新聞、パンフレットなどにまとめる表現活動を取り入れる。

○主体的に取り組む態度

- ・スーパーマーケット、消防署、大田市場等の見学、昔の暮らし体験を通して、主体的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。
- ・3年から断続的に地図帳を開く時間を設定し、基礎的な用語や地図記号、地名等に親しむ。

【 高学年 】

○知識・技能

- ・東京都の地理的環境の特色や、地域の環境、自然災害から身を守るための活動などについて、自分の経験や知識、既習事項と関連させながら学習し、小テストなどで定着を図る。
- ・自然災害から国土を保全し、国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを資料集や映像資料を活用して、正しく理解できるように指導する。
- ・世界における日本の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを理解できるよう、地図帳や地球儀などを使って指導を行う。また、小テストやプリント学習で知識の定着を図る。
- ・放送、新聞などの産業が、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを、身近な出来事と関連付けて指導することで理解力を深める。

○思考・判断・表現

- ・先人の働きについて、イメージを膨らませやすくするために、映像資料を活用して、地域の発展に尽くした事例を学び、先人の働きについて理解できるようにする。
- ・日本の食糧生産、工業の盛んな地域などについて、調べたことや考えたことをノートやワークシートに表したり、新聞やパンフレットにまとめたりする活動を行う。
- ・情報の種類、情報の活用の仕方などについて、資料集やICTを活用して調べ学習を行い、自分の言葉でまとめる活動を取り入れる。

○主体的に取り組む態度

- ・日々のニュースや社会的な出来事を紹介し、社会的な事象への関心や課題解決をしようとする意欲を高め、生活に生かそうとする態度を育てる。
- ・児童の発問や感想から次の学習につながる言葉を拾い、探究的に学習をすすめられるようにする。